げんでん ふれあい 福井

2011 SUMMER　第40号

福井県立 こども歴史文化館をたずねて

若狭の歴史と人物「お初と三姉妹（二）」

ふるさと福井人物シリーズ「食育の祖 石塚 左玄（六）」

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的にしています。本誌はこの主旨に従い県民のみなさんとの絆を大切にした広報誌を目指します。

財団シンボルマーク

CONTENTS —— 40

●福井県立 こども歴史文化館をたずねて …… 2
●若狭の歴史と人物
「お初と三姉妹（二）」 …… 4
●ふるさと福井・人物シリーズ
「食育の祖　石塚 左玄（六）」 …… 6
●第14回 風花随筆文学賞
財団受賞作品紹介 …… 8
●ふくいの伝統行事シリーズ
「したんじょう行事」 …… 10
●敦賀市立博物館誌上ギャラリー／34 …… 11
●福井の文学碑
「小説家　泉 鏡花」 …… 12
●福井の民俗文化 シリーズ5
「北川流域の子供御輿」 …… 13
●情報ファイル …… 14

福井県立 こども歴史文化館をたずねて

福井市

平成22年度の全国学力テストで福井県は中学生が1位、小学生が2位と小・中学生とも4年連続全国トップクラスの成績を残しています。また福井県では、教育・文化ふくい創造会議の提言（本誌37号参照）を受け、県下約8千人の小学5年生を対象に、県立音楽堂でのオーケストラ鑑賞、文化施設の見学などの「ふれあい文化こどもスクール」を実施し、文化教育に力を入れています。

そこで今回は、こどもの文化教育の拠点施設の一つとして平成21年11月にオープンした「福井県立こども歴史文化館」を取り上げました。

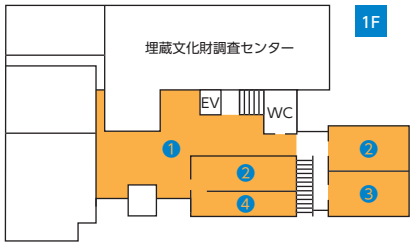
人物を通して福井の歴史文化を学ぶ

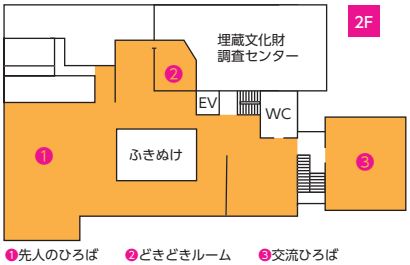
この「県立こども歴史文化館」は旧県立図書館を活用整備したもので、こどもを対象に、独立した建物で、こどもに冠した歴史文化施設は全国初めてのもので注目されています。

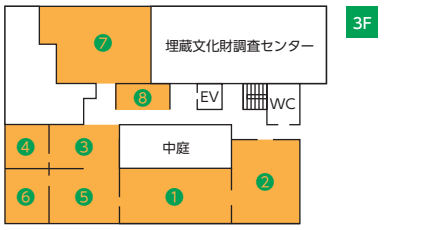
福井県ゆかりの先人や達人にスポットをあてたこども向けのミュージアムで、歴史上の人物の功績を通してふるさとの歴史や文化を楽しく学ぶことができます。このこども歴史文化館はこどもたちに、自分の将来に大きな夢をふくらませてもらいたい、という目標をもっています。この

県立こども歴史文化館

館内案内（展示面積　1850㎡）







交通アクセス

利用案内

■開館時間■
午前９時～午後５時
（入館は午後４時30分まで）

■休館日■
毎週　月曜日・祝日の翌日・年末年始

■住所■
福井市城東１丁目18－21
TEL 0776-21-1500

FRONT COVER

福井県指定無形民俗文化財「したんじょう行事」〈福井市〉

福井市鹿俣で毎年5月5日の子供の日に行われる「したんじょう行事」は、朝倉氏が統治していた時代の猪退治を再現する、子供主体のエネルギッシュで春の野山の息吹が感じられる野性的な行事です。「したんじょう」とは大名行列の「下にい、下にい」という掛け声にちなんだとされ、野山のマンサクの枝を組んで作った大きなシシを、露払い・先駆け・殿様・鋏箱かつぎ・シシヒキ・シシ・シッポ持ちの順に行列を組み、社寺を参拝後、集落内を引き回して、最後にお寺の境内でシシをみごとに退治。意気盛んな子供たちのパワーあふれるお祭りです。

施設から、将来を担うこどもたちが、ふくいへの夢や希望をもって成長していくことを期待しています。

寺子屋ルーム 体験ルーム

1階

・寺子屋ルームは江戸時代の寺子屋風に作られた部屋で、施設の案内を聞いたり、映像番組を見ることができます。

・体験ルームは「おもしろ科学教室」や「お話し会」など科学や歴史に関する楽しい体験をする部屋です。毎月テーマを変え実施されるイベントには寺子屋ルームとともに活用され、特にリピーターに多く役立てられています。

寺子屋ルーム

先人のひろば

2階

先人のひろばはこども歴史文化館のメインとなる展示場です。福井ゆかりの人物を古代から近現代までの時代順に、映像やジオラマ、イラストなどを使い、こどもにも分かりやすく解説されています。

先人のひろば（幕末）

継体天皇、道元、杉田玄白、松平春嶽、岩佐又兵衛、横井小楠など55人をふるさとの先人として、その業績を紹介しています。

幕末シアターのコーナーでは松平春嶽、橋本左内、由利公正の3人が大型スクリーンに現れて幕末の福井を語り合います。

また、ここには各時代の衣装を楽しむ「のぞいて変身コーナー」の小部屋があり、写真も撮る事ができて人気を集めています。

南部陽一郎 科学ワールド 白川静 漢字ワールド

3階

南部陽一郎 科学ワールド

・南部陽一郎科学ワールドは、福井市出身で素粒子の研究でノーベル物理学賞を受賞した南部博士を紹介しています。ノーベル賞のメダル（公式レプリカ）も展示されているほか、博士の研究テーマである素粒子の世界を迫力ある3D映像で体感することができます。

また、今年の4月からこの常設展に博士の直筆のホワイトボードが展示されるようになりました。

これは、平成20年春、甲南大学で旧知の研究者と議論した時のもので、ホワイトボードには、細かいペンで書かれた数式や記号が書かれています。文字が消えないようにアクリル板で保護されており、同館が2月に譲り受けたものです。

・白川静漢字ワールドは、福井市出身の漢字学者で文化勲章受賞者の白川博士を紹介しています。漢字の魅力と謎を体験しながら学ぶコーナーや、手のひらをスクリーンにして、漢字の成り立ちをアニメーションで学ぶ「漢字ファンタジア」の部屋があり、こどもに人気があるコーナーとなっています。

白川静 漢字ワールド

達人のひろば

3階

現在、最先端の産業や伝統工芸、スポーツや音楽、文学、芸能などの各界で活躍する、福井ゆかりの「達人」を30人紹介しています。また、それぞれの達人に関する品々も展示されているほか、こどもたちに向けた、達人からのメッセージが伝えられています。

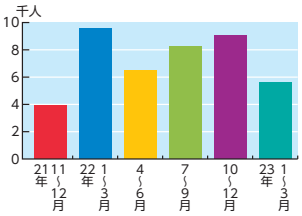
達人のひろば

特別展 毎月のイベント

1階2階

「県立こども歴史文化館」が平成21年11月にオープンして以来、平成23年3月末までの入場者は4万2860人（表1）で、多くのこどもが来館し、楽しみながら学ぶことのできる施設として利用されています。

表1 こども歴史文化館入館者数（H21.11～H23.3）



同館は、これまで「こども文化スクール」の訪問文化施設として、福井の文化やふるさとに対する関心や、理解を深めることで利用されています。また同館自体でも、特別展（表2）や各月のイベント（表3）など企画に工夫を凝らし、こどもが何度でも訪れたくなるような施設にしたいと取り組んでいます。

館長の笠松さんは「こども歴史文化館はこどもに限らず、大人でも十分楽しめる施設となっています。家族や友人と気楽に訪れてほしい」と広報に努めていました。

表2 特別展と入場者数

特集展示名	期　間	入館者数（人）
南部・白川両博士が育ったころの福井	H21.11.28㈯～H21.12.27㈰	3893
松旭斎天一展	H22.07.27㈫～H22.08.31㈰	4992
川崎和男展	H22.10.02㈯～H22.11.07㈰	4579
かこさとし展	H22.11.28㈰～H22.12.26㈰	2846

表3 平成23年度5月、6月イベントスケジュール

5月	6月
	発明くふう展 未来の科学の夢絵画展 6／4～7／10（企画展示）
	大橋さんのビーズワーク教室
	せっちゃんおばちゃんの紙しばい会
	くどう博士の手づくり科学おもちゃ教室 6月①
	くどう博士の手づくり科学おもちゃ教室 6月②
ofude（オフデ）さんの先人の似顔絵にチャレンジ	
まが玉のレプリカをつくってみよう！	
せっちゃんおばちゃんの紙しばい会	
くどう博士の手づくり科学おもちゃ教室 5月①	
くどう博士の手づくり科学おもちゃ教室 5月②	

（記事については、こども歴史文化館資料を参考にさせていただきました）

若狭の歴史と人物

お初と三姉妹（二）

―乱世の世に華を咲かせた三姉妹―

文：杉本泰俊

茶々（淀）・初（常高院）・お江（崇源院）のいわゆる浅井三姉妹は、母お市の方の美貌を受け継いだ美女たちでありましたが、美女であったがゆえに戦国期に一番数奇な運命を辿った姉妹として知られます。いずれも幼い頃から大変仲の良い三姉妹だったと伝えられていますが、彼女たちが辿った運命は後世に語り継がれ、今年春からNHKでドラマ化され好評を博しているようです。

茶々は、秀吉側室になった淀君です。永禄12年（1569年）に生まれた淀は、天正元年（1573年）に父長政が織田信長に敵対して攻められ、小谷城が落城すると母妹らとともに救出されました。このとき父と祖父は自害し兄の万福丸は捕らえられ、信長の命により秀吉によって処刑されました。その後三姉妹は伯父のもとにおかれ、清洲城で保護されました。信長が本能寺の変で明智光秀に殺された天正10年（1582年）、母お市方が越前北の庄城主柴田勝家と再婚すると、三姉妹は母とともに越前に移りました。信長の死後、秀吉と勝家が対立し、天正11年（1583年）賤ヶ岳の戦いで勝家が敗れると、お市の方は夫勝家とともに自害しましたが、三姉妹は逃がされて秀吉の保護を受けました。その後、一時的に叔父の織田長益の庇護の下、安土城に住み、後に聚楽第で伯母側室になりました。同18年4月13日に、秀吉が正室おね（ねねとも言う）に宛てた手紙によれば、小田原陣中へ淀を呼び寄せる様に命じ、また正室おねに次いで気に入る女性は淀であると記しています。ちなみに秀吉が催した醍醐の花見での興の順位は三番目が京極竜子（松の丸）でありました。

北の庄城跡（福井市中央１丁目）

三女は、二代将軍徳川秀忠の正妻となった**お江**です。天正元年（1573年）小谷城が落城する年に生まれたお江は、同10年、母お市の方とともに越前柴田勝家のもとで過ごし、同12年のお江が11歳になった年に尾張大野城主であった佐治一成と結婚させられますが、小牧長久手の戦いで三河へ帰る途中、秀吉はお江に淀の病気を理由に佐治家へ帰ることを許さず翌年離縁させられ、同15年には柴田秀勝に嫁して文禄元年（1592年）完子を出産しました。が夫秀勝が死去したため、同4年9月17日23歳になったお江は秀吉の養女となって6歳下の徳川秀忠に嫁ぐことになりました。後に完子は猶子として九条忠栄に嫁がせています。

お江と秀忠の間には2男5女が生まれました。長女に豊臣秀頼の室となった千姫、二女は3歳で前田利光（後利常）の室となった珠姫、三女は10歳で松平忠直の室となった勝姫、四女の初姫は4歳で京極高次の跡を継いだ忠高の室となりました。続いて竹千代（後の家光）が生まれ、秀忠が将軍になった慶長10年（1605年）の翌年に次男国松（後の忠長）が生まれ、最後に同12年に五女和子（まさこ）が生まれました。和子は元和6年（1620年）に後水尾天皇に嫁し、興子（後の明正天皇）を生んでいます。

お江と秀忠は、二人の男子のうち病弱な竹千代より弟の国松を寵愛したことは余りにも有名な話でありますが、慶長17年（1612年）2月25日、家康がお江に対して徳川家の家督はあくまで竹千代に渡すので、国松にはそれを補佐する人物に育てるように丁寧に説いています。この手紙は竹千代の乳母であったお福（春日局）が竹千代の廃嫡を恐れて家康に直訴したことからと言われています。

ある時、家康が鷹狩りと称して駿府を出て江戸城に赴いたとき、竹千代が上段の間にあげるのを見て、国松も同様に上段に上がろうとしたとき、家康

筆者プロフィール

杉本 泰俊 氏
Taisyun Sugimoto

1949年（昭和24年）10月、福井県生まれ。高野山大学仏教学部卒業。小浜市に奉職。世界遺産推進室長、小浜市立図書館長などを歴任。2010年3月に退任した。これまで小浜市史の編纂に携わったほか、福井県史の調査執筆員を勤める。著書には「若狭の古寺美術」のほか、小浜市、ならびに小浜市議会が発行した「御食国」「小浜市議会史」の編集・編纂に当たった。1990年より高浜町中山寺住職、2010年5月より京都仁和寺総務部長。

が国松を制止させたというエピソードがあります。お江は政治的な要因で3人と結婚しましたが、三代将軍家光の生母であり、天皇の姑であったことから、三姉妹のなかでも晩年は一番権力をもった人生でありました。寛永3年（1626年）9月15日江戸城で54歳の生涯を閉じました。秀忠は江と結婚して以降、浮気はしたが正式な側室は1人もたず、美女として誉れ高いお江を寵愛していました。江が秀忠より年上で、嫉妬深い性格であったためもありますが、律儀な性格であった秀忠はお江に頭が上がらなかったといい、それだけに美貌だけではなく魅力のある女性ではなかったかと考えられています。

お初は、永禄13年（1570年）近江小谷城主浅井長政とお市の方の次女として生まれ、天正15年（1587年）大津宰相京極高次に17歳で嫁したが、子供は出来ませんでした。

一方、高次は、本能寺の変で明智光秀に味方したが、妹竜子が秀吉の側室であったため助命され、天正12年（1584年）には、近江高島郡を領し、その後同18年には近江八幡城主となり、文禄4年（1595年）に大津城主となりました。

関ヶ原の戦い（1600年）に際して、夫高次は、東軍石田三成の軍に包囲されて開城、その責任をとり剃髪して高野山に入りました。この時、お初や竜子は大津城中にあり、一方淀君も城攻めにあっていました。しかし関ヶ原合戦の前日まで大津開城を引き延ばしたという功績が認められて小浜藩主となりました。

秀吉の死に際してお初は、秀吉から近江国蒲生郡内で二千石余の化粧料を与えられています。

お初は、慶長14年（1609年）夫高次の死去とともに出家し常高院と名乗りました。晩年、江戸に滞在していた常高院は、自らの心の拠りどころとして、また、夫高次の菩薩を弔い、さらには父母である浅井長政とお市の方らの供養の為、寛永7年（1630年）嫡男である忠高（実母は於崎（玉台院）、正室は徳川家第2代将軍秀忠お江の方の四女・お初）が領する小浜の地に常高寺の建立を発願し、幸いにも槐堂和尚との知遇を得て開山として迎えました。かつて秀吉からいただいていた化粧料二千四十五石のうち三百石を常高寺の寺領として寄進し、寺の基盤を固めました。しかし、常高院は病を発して、普請半ばの寛永10年（1633年）8月27日、京極家の江戸屋敷にて波乱に富む人生を閉じました。享年64歳でした。遺骸ははるばると木曽路を越えて小浜城に運ばれ、常高寺において葬儀が執り行われました。城主忠高を始め、家臣もことごとく喪服にて葬列に参加したと言われています。

京極高次は、これまで小浜の町の南にあった後瀬山城を廃して、南川と北川とが合流する雲浜の地に新たな城の築城を開始しました。築城にあたって、城の予定地にあった下竹原の集落を西津に移し、ついで城の地盤を固めるための城の海側への捨石を三人乗り以上の船持の浦々に命じました。同時に、これまでの小浜の町を東に大きく拡張し、小浜町の基盤を完成させました。

小浜城が築かれていた江戸時代初期、幕府は各大名に対して息つく暇もないほど、さまざまな普請役を課しました。徳川氏と親密な関係にあった京極氏も例外ではなく慶長9年（1604年）から19年の間に彦根城・江戸城・禁裏・仙洞・江戸城と幾つもの築城普請役が課せられ、慶長19年から元和元年（1615年）にかけての大阪の陣では参陣も命じられました。大阪の冬の陣では徳川家の使者として常高院が姉淀を説得しています。

さらに大阪の陣が終わった元和6年から寛永5年（1628年）に幕府の直轄となった大阪城の再建には小浜藩士や若狭藩領内の百姓の多くが動員されたと伝えられています。

戦国末期から江戸幕府が盤石になっていく間を小浜や江戸で見ていたお初（常高院）は、江戸における妹お江の人生を思い、また姉淀の運命を母お市の方と重ね合わせて世の移ろいをどのように見たのでしょうか、また、この戦乱期のなかで一番幸せだったのはお初こと常高院ではなかったと思うのです。

常高院肖像（資料提供 小浜市）

常高院墓所（資料提供 小浜市）

ふるさと福井人物シリーズ

食育の祖 石塚左玄（六）

左玄の訓え ③人は穀物食動物なり

文／岩佐勢市

第1章 人類は穀食動物なり

明治29年に左玄が書いた『化学的食養長寿論』（500ページ）やそれをより簡易に分かりやすく明治31年に書いた『通俗食物養生法 一名化学的食養體心論』（220ページ）もその第1章の見出しを「人類は穀食動物なり」と記する程に左玄は穀物食にこだわっています。人間は俗に雑食動物と言われて何でも食べる動物と思われていますが、左玄は人間が食べるべき食のウエイトから判断して穀物食を主として食べる穀食動物と呼びました。人は肉食動物でもなければ草食動物でもない事は周知の通りですが、穀食動物とは聞きなれない言葉です。

左玄は人間の歯の数、形や構成と下あごの動き方で穀物を食べる穀食動物であるという確証を得ました。

ライオン等の肉食動物は、歯の形が犬歯で魚や肉を引き裂く役目を持っており、牛等は草食で草を口の中で繰り返し噛むために、歯も平歯で下あごも横・斜めに動くようになっています。

そもそも歯の形状や構成はそれぞれの動物が本来食すべき物に対しての必要性から生まれたもので成されており、それにあった食事を実践する事がまず食養の入り口になります。（表1参照）

表1　動物の歯の形

動物	獅子、虎	牛、馬	人間
歯の形	ノコギリ歯	平歯	臼歯
下あごの動き	横・斜めに動かない	横・斜めに動く	前後左右に動く
特性	肉食	草食	穀食

臼歯は

『臼歯を持つ人は粒食う動物よ』とは左玄が人は穀物食動物なりと言った言葉です。

臼歯はその字の如く、臼のような歯であり臼の中に硬い穀物を入れてすりつぶして穀物を食べるための歯です。人はその臼歯が20本で全体の62.5%の割合がありますから食の62%は穀物を食べるべきと言うのです。門歯は野菜・果実を食べるのに適した歯で25%は、人間は野菜・果実を食べるべきとなります。犬歯は魚・肉を食べるための役目がありますが、12.5%は魚等を食べるべきとなります。（表2参照）

表2　人間の歯の形と本数

	本数（親知らず含む）	構成比	特性
臼歯	20本	62.5%	穀物をすりつぶす
門歯	8本	25.0%	野菜・果実を食べる
犬歯	4本	12.5%	魚・肉を切る
計	32本	100.0%	

1割の子供に退化現象

本年の3月6日の新聞記事に『子供10人に一人に永久歯がない。』と日本小児歯科学会がショッキングな発表をしています。『臼歯と門歯が先天的に生えて来ない。』と言うのです。その原因ははっきりとは分からないが、食生活の激変により①穀物・野菜等が減る。②柔らかい物を食べる事等での退化現象と考えているとの内容です。

又人間の唾液や消化酵素は弱アルカリで穀物を主とする分解用で肉食に適した分解用ではない事も穀物食動物の証と言えます。

ベジタリアンとの違い

左玄の訓えは完全菜食主義者と誤解する人もいますが、決してそうではなく魚類も12%は食べるべきと言っている事から菜食主義者（ベジタリアン）ではない事が伺えます。又本の中で左玄はベジタリアンと穀物食の相違を述べています。

当時の欧米では既に菜食主義者が存

筆者プロフィール

岩佐　勢市氏
Seiichi Iwasa

1949年福井市に生まれる。鳥取大学卒業。JA経済連・JA厚生連に奉職。前JA福井県厚生連理事長。職務の関係から住民健康管理のうえで、特に子供の食育に注目。現代の子供達の食生活の乱れを憂う。自らもスローフードの研鑽ならびに、福井市生まれで食育の祖と言われる石塚左玄の研究を進め、業績の紹介とともに、食育の重要性の啓蒙と、食と運動による健康づくりを提案している。石塚左玄の業績に詳しい。

表３　穀物食とベジタリアンの相違

穀物食とベジタリアンの相違
穀物食は化学の学理に基づく
穀物食は歯の構造から食事を考える
穀物食は土地の風土、気候を考慮した食事
穀物食は魚等の食もする。

在していた事が書かれています。そして彼らは魚や肉類を全く食べず、野菜と穀物を主とした食生活を行っているが、これは穀物食と似て非なるものと言っています。表3にあるように、穀物食はベジタリアンと違って、魚肉・野菜等の穀物以外の食物も食するが、歯の形と数から穀物を主とする食生活であり、風土と密接に手を携えた食であり、穀物食は常に化学を考慮した上での食である事が穀物食と菜食の大きな相違点と指摘しています。

玄米は正穀と正食

左玄の言う穀類とは、玄米を意味しています。玄米の栄養学的価値については37号の石塚左玄の功績と現代への警鐘の所でも簡単に述べましたが、41号で更に詳しく書く予定です。

左玄は玄米を正穀と言い、その高い栄養価値に注目しました。正穀に準ずるものとして蕎麦をあげています。

本来人間は穀物動物である事から、玄米は唯一粒を丸ごと食べる最高の穀物食でもあると言いました。

食養の選択の最高に位置づけされているのが、正穀の玄米でありその食を正食と呼ぶのです。

左玄の訓えが弟子たちによって世界に「マクロビオティック」となって拡がって行きましたが、アメリカでのマクロビオティック食もｂｒｏｗｎｒｉｃｅ（玄米）でした。それにｍｉｓｏ ｓｏｕｐ（味噌汁）が付いた穀物食が基本でした。

弁（わきま）えた食

雑食と勘違いしている人間はそれこそ何でも食べ、その割合も何も気にしていないのが実態です。生きている地球上の動物はその種類によって実に様々の食生活が見受けられます。しかし生きている動物は生まれながらにして何を食べるかが既に決定されています。百獣の王ライオンはそこに住んでいる動物を狩って肉しか食べません。葉っぱ類を食べる昆虫ですらどの木の葉か、どの種類の野菜の葉っぱを食べるべきか口にする葉を決めています。モンシロチョウの幼虫が食べるのはキャベツの葉っぱだけです。アゲハチョウの幼虫は山椒の木の葉っぱです。無力な幼虫が食材の確保に向けてお互いの要らぬ戦争を避けるための神が創った自然の知恵かも知れません。しかしライオンも蝶も何を食べたらいいのか皆弁えているのです。食の連鎖の最高峰にいる人間だけが何でも食べてもいいと思いあがりをしているのが実態です。

ＢＳＥの原因は

一時ＢＳＥ汚染の牛肉で日本でも大騒動でした。熱しやすく冷めやすい日本人からはもう忘れ去ろうとしている大きな問題です。アメリカからの輸入に当たっては、今も厳しい国の管理の下に置かれています。そもそもＢＳＥとは牛海綿状脳症の英語の頭文字ですが、牛の脳が溶けてスポンジ状になり死ぬ怖い病気です。食する肉の部分などを取り除いたあとの骨や内臓などを加熱処理した物を肉骨粉と言いますが、それを牛の餌とした肉骨粉原因説や代用乳説などがあり、狂牛病も化学的には諸説が混在しています。ＢＳＥ汚染肉を人が食すれば人も同じ様な病気を発症するというので、牛の徹底した飼育管理が求められています。しかし冷静に考えてみると、牛は歴史上肉類を一切口にした事がないのです。表1にあるように、牛は完全な草食動物です。ＢＳＥの伝染経路は不透明な点もありますが、草食動物の牛が絶対に食べたことがない肉骨粉なる肉食を人為的に餌として与えられた事実です。そして共食いと言えます。食べるべきものを食べずに、食べてはいけないものを食べた結果がＢＳＥと私は考えます。日本人も左玄が言う穀食動物である事を忘れ、今や肉食動物あるいは雑食動物になろうとしています。

圓（まろみ）心ある穀類（こくるい）

『圓心ある穀類多く食しなば智仁勇義の道に富むなり』

大阪JR梅田駅前の繁華街の一角は曽根崎心中で有名な所です。そこにある日蓮宗本傳寺に大きな石碑が建っています。左玄の死後明治45年に大阪双鹽会によって左玄の言葉が書かれています。

さて左玄が意味するのは、『食物の形状は大別すると3つあり、縦に長いのは地中より生ずる野菜類で植物食品、横に長いのは活きて動いている魚・鳥・獣類で動物食品で、圓い物は穀類・果実類です。水はその入っている容器によって圓くもなれば、四角にもなるように、人間は善悪の友にも左右されますが、それ以上に日々の食が大きい影響を与えて、善人にも悪人にも賢者にもなれば愚者にもなります。正しい食養を実践して圓い穀物を食べれば、身体も心も圓くなり、横に長い動物食品をたべれば心身は横様になり、縦に長い植物食品を食べると縦様になる。』圓は丸いと同じ意味を持っています。

圓い食材である米粒は人の心も圓くすると説いています。

かなり哲学的思考と宗教的発想が混在していますが、穀物食をより簡易に理解し易くするためにこの歌を作ったのです。

日蓮宗本傳寺石碑

平成22年度・第14回 風花随筆文学賞

最優秀賞〈一般の部〉に 蛯沢 博行さん（青森県）

平成22年度の「風花（かざはな）随筆文学賞」（同実行委員会主催、当財団特別協賛）の授賞式が3月5日福井新聞社・風の森ホールで行われました。

この文学賞は、福井市出身の芥川賞作家津村節子さんの随筆「風花の街から」にちなんだ名称を冠した賞で、平成9年度に創設、14年度から実行委員会により運営されており今回は14回目です。

応募作品の審査委員長を務められている津村節子さんから入賞者16人が表彰されました。津村さんは、「今年は、年配の男性がしっかりした作品を出していただいた。福井県の高校生も頑張っています。」と評価し、入賞作品一つひとつに講評されました。

今年度は国内外から一般の部に1616編、高校生の部に1592編、計3208編の応募が寄せられ慎重な審査が行われました。最優秀賞、優秀賞受賞の皆さんは、次のとおりです。（敬称略）

一般の部

▽最優秀賞・福井県知事賞　蛯沢博行（青森県）「父・吉五郎の洗濯機」
▽優秀賞・福井新聞社賞　植松二郎（神奈川県）「ちぎれ雲」
▽優秀賞・仁愛女子短期大学賞　藤本美智子（東京都）「赤いカンナの花の下に」
▽優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞　大川進（新潟県）「代役」
▽優秀賞　与田久美子（長崎県）「息子の恩返し」
▽優秀賞　孫美幸（京都府）「中学生になった母」

高校生の部

▽最優秀賞・福井県教育委員会賞　髙田千種（福井県立藤島高等学校）「風鎮」
▽優秀賞・福井新聞社賞　谷口友布稀（京都府立山城高等学校）「水色の浴衣」
▽優秀賞・仁愛女子短期大学賞　山本真央（石川県立金沢錦丘高等学校）「桜さく」
▽優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞　内海玲奈（仁愛女子高等学校）「グミとチョコレート越しに」
▽優秀賞　長尾有紗（高知県立宿毛高等学校）「生まれたという奇跡」
▽優秀賞　十川和樹（徳島文理高等学校）「花火」

作家 津村節子さん（前列中央）を囲み表彰記念撮影

げんでんふれあい福井財団賞 受賞作品紹介

高校生の部
優秀賞

「グミとチョコレート越しに」

内海　玲奈さん　仁愛女子高等学校

弟というのは可愛いのは最初のうちだけで、そのうち生意気になっていくものよ。

なるほど、近所のお姉さんが言っていた通りで、私の家では毎日弟との喧嘩が絶えない。弟は小学五年生で、私とは六つ年が離れている。この六歳差というのはなんともどかしい距離で、同じ話題で楽しもうとしても知識や経験の違いから上手くいかない。せめて十でも離れていれば、と思うこともしばしばである。

八月の上旬だったように思うが、私は母に頼まれて弟の夏休みの課題である、読書感想文を手伝うことになった。誤字や言葉の使い方を正すだけで良いだろうと思っていたのだが、そんなに甘いものではなかった。なんせ弟は国語、特に文章を書くということが大の苦手なのだ。また、私がしゃしゃり出てしまっては彼の作品とは言えなくなってしまうため、うまく誘導しつつ、彼自身の言葉で表現させなければならなかったのには骨が折れた。

しばらくつきっきりで教えていると弟もコツをつかんできたのか、自ら筆を執るようになっていった。思いのほか時間がかかり、どっと疲れた私は普段より随分早く床に就いた。

翌朝、目を覚ますと机上に何かが置いてあるのが見えた。グミだった。それも、パッケージにメモが一枚貼り付けてあるのだ。

「イライラにはあまいものがいいよ。太るけど。それから、」

とあった。そういえば何度か声を荒げた気がする。メモ用紙を裏返してみると

「作文見てくれてありがとう。」

と、お世辞にも上手とは言えないよれよれの字で書いてあった。

きったない字。昨日あれほど丁寧に書きなさいと言ったのに、と思いつつ小さく笑ってしまった。青リンゴ味のそのグミをゆっくり噛みしめると、甘酸っぱさが鼻をぬけた。

一般の部
優秀賞

「代役」

大川　進 さん　新潟県

机のまわりを見まわすと、コンビニで買ったチョコレートが目に入った。引出しの中からメモ帳を取り出して一枚破りとった。

「どういたしまして。」

そういえば、ありがとう、は言うことが多くてもどういたしまして、と返すことはめったに無かったと気付かされた。ありがとう、の一言とその笑顔に圧倒され、つい照れくさくなってしまうのだ。こんなときでなくちゃ返すことはできないなあ、としみじみしながらチョコレートを二つ持って、メモ用紙と一緒に弟の机の上にそっと置いておいた。まだ眠りについていた彼は、目覚めてそれに気づいたときどんな顔をしたのだろう。

私も、弟も、お互いに机上の会話については話していても触れることはなかったが、彼の部屋のゴミ箱にチョコレートの包みが捨ててあったのを私は知っている。

妻が大切にしている一枚の写真がある。七年近く前のスナップ写真で画面は少々退色しているが車椅子の老女があどけない笑顔を見せている。この人の名はヨシノさん、当時九十二才、妻が老人ホームM苑で知り合った女性である。

その頃、妻はこのホームでヘルパーとして働いていた。その勤めを始める半年前、わが家に同居していた妻の母が九十三才で亡くなった。母は隣り町で独り暮しをしていたが、ある日転倒して歩行困難となったため通院を兼ねてわが家に身を寄せていた。妻は必要に迫られた形でホームヘルパーの講習を受けて介護に努めていたが、結局三年後に母は亡くなった。妻の悲しみは深く、母の居室で時々涙を流していたが、そんな時、近くのM苑に勤めている知り合いのヘルパーから助太刀を頼まれた。若いヘルパーが結婚退職したため介護のローテーションが組めなくなったという。妻は「もう年だから……」と一度は断ったものの再度の頼みに週三日勤務という条件で引き受けた。母の死で切れてしまった心の張りを取り戻そうという気持ちもあったようだ。

妻はM苑での仕事については殆ど話をしなかったが、勤めて一ヶ月ほど経ったある日、帰宅するや珍しく「ホームでお母さんに似た人に会いましたよ」とやや興奮気味に話し始めた。二日前、老人たちが憩っている食堂兼用のホールに行くと「ノリ子さん、よく来てくれたね」と一人のお年寄りが近づいて来て妻の手を握った。見事な白髪をひっつめに束ね顔には深い皺が刻まれているが穏和な顔立ちな女性である。突然話かけられて途惑っていると若い女性スタッフが駆けつけて来て「ヨシノさん、お人違いですよ」と引き離してくれた。「この頃、時々人さまを見間違えるようになりましてね。貴女を息子さんのお嫁さんと勘違えされているんですよ」と話してくれた。それによると、ヨシノさんは以前息子さん夫婦と暮らしていたが、二年前自ら望んでM苑に入所した。その事情は分らないが息子夫婦はたびたび面会に来ていた。しかし半年ほど前、息子さんの転勤で一家は東京に引っ越してしまって、このところ顔を見せなくなった。この頃からヨシノさんはふさぎ勝ちとなり、最近は言動に異状が見られるようになった。高齢になってから家族と遠く離れて暮す淋しさ、不安感が引き金になったのではないかという。「さぁ、お部屋に戻りましょうね」とスタッフに手を引かれてゆくヨシノさんを見送っている妻の脳裏にふと亡き母の姿が蘇った。母も亡くなる頃はかなり惚けが進行していた。物忘れがひどく、特に人の記憶が失われていった。時には毎日介護してくれている自分の娘も分らなくなって、「実の母親に忘れられるなんて……」と妻は嘆いた。だが若くして夫と死別し苦労を重ねて自分を育ててくれた母だけに一層愛しさが募るようだった。覚束ない足どりで去って行ったヨシノさんの後姿に亡き母が重なって見えた。

そして今日M苑に行くと再びヨシノさんが傍に来て「ノリ子さん」と満面の笑みを浮かべて迎えてくれた。思わず「お母さん」という言葉が口をついて出た。掌で小さな手を包むとヨシノさんの顔が喜びでくしゃくしゃに崩れた。担当のスタッフに「当分私がノリ子さんの代役を務めますから……」と伝え肩を抱くと亡き母の懐かしい温もりが伝わってきた。

翌日から妻は毎日M苑に出かけていった。

日が経つにつれてヨシノさんの頭の中では妻＝ノリ子さんというイメージが定着したようだった。妻の方も日々ヨシノさんへの親しみが深まっていった。晴れた日にはヨシノさんを車椅子に乗せて季節の草花に彩られた苑の中庭をそぞろ歩きした。穏やかな秋の陽だまりのベンチでひと休みしていると亡くなった母と過しているようで気持が安らぎ時が経つのを忘れると妻は話していた。

二人が知り合って四ヶ月ほど経ったある夜更、苑からの電話でヨシノさんが突然倒れて緊急入院したと知らされた。脳溢血らしいという。すぐ妻と私は病院に向かった。ベッドで昏々と眠るヨシノさんの耳許で妻は「お母さん……」と呼び続けたが反応は無く、翌日早朝に息を引きとった。

「いま思うと、私、ノリ子さんの代役の積りだったけれど、逆にヨシノさんが私のお母さんの代わりをしてくれていたのではないかしら。毎日がとっても楽しくて娘時代に返ったような気がしていました」葬儀から帰宅した妻がしんみりと言った。「でも、あの人、本当に勘違いに気付かなかったのかしら」と日頃胸にあった疑問を口にした。「間違いなくヨシノさんはお前をノリ子さんと信じて亡くなったと思うよ」と私が言うと妻の目から一筋涙がこぼれた。かりそめの二人の仲は日が経つにつれまことになったと私は感じていたからである。仮りにあの世のヨシノさんに聞いても同じ答えが返ってきたに違いない。

series
シリーズ
ふくいの伝統行事

福井県指定無形民俗文化財「したんじょう行事」

福井市

祭りの由来

「したんじょう、したんじょう」と、元気いっぱいの子供たちの掛け声がのどかに流れる、ここ福井市の山間部の鹿俣町。長い北陸の冬が去り、にわかに周囲の山やまの木々が芽吹いて、自然が復活し、まさしく季語の「山笑う」「笑う山」「山装う」などと形容される、さわやかな五月。子供の日の5月5日（木）に、当地では全国的にも大変珍しい伝統行事「したんじょう行事」が集落の子供たちによって行われます。

祭りの名称の「したんじょう」とはあまり聞き慣れない言葉ですが、古老の伝承では大名行列の「下にい、下にい（下におれ）」がなまったものとされています。いかにも近くに越前朝倉氏の一乗谷遺跡があり、武家の文化の影響を思わせますが、ただし「大名行列」は江戸時代の参勤交代の制度ですから、あくまでもこれはこじつけの説でしょう。

伝承では今から約540年ほど前に、朝倉氏が当地を支配してた頃、村の入り口の堂山付近から猪の大群が現れ、田畑を荒らしたため、当主に猪退治を願い出たところ、猪狩りが行われ首尾よく退治することができたとされてきました。その猪退治を後世に伝えるために、意気揚々と引き揚げる武者の行列を再現したのが「したんじょう行事」の由来と伝えられています。その日が、4月15日（現在は5月5日）であったため、氏神の八幡神社の奉納行事として毎年行われるようになりました。

したんじょう行列

行事の準備と装束

鹿俣集落を回る行列

当日、午前中に八幡神社で神事が行われた後、農村公園のしたんじょう館の前で大人たちによって「シシ」が作られます。まず丸太と雑木を結束して三角屋根の形を組み立て、マンサクの枝葉で覆い、3メートルほどのシシの胴体を形作ります。俵装に用いたサンダワラ（桟俵）を二つ重ねて頭部とし、かみは長い野草を垂らし、牙はレンゲツツジのつぼみをならべ、木刀を口にくわえさせ胴体に引き綱をつけて完了となります。

行事は午後1時30分から、堂山付近から出発します。猪退治の武者行列にならって、先頭に露払い2人、先駆け2人、殿様、鋏箱かつぎ2人、シシヒキ約30人、シシカツギ十数人、シッポ持ち1人、シシは100キロ近くあって相当重いため青年や大人たちもかつぎます。墨でりりしく髭を描いた殿様の装束は、白衣に白足袋、青い袴と紋章付の陣羽織を着用し、陣笠をかぶって大小二本の刀を腰にさして威厳をただします。

お供の家来は白いシャツにパンツ、法被に白ハチマキを着用、頬には奴ふうの髭を描き、木刀をさした出で立ち。露払いはムチで行列を先導し、先駆けはツツジやタニウツギ、ツバキ、ヤマブキなどの野山の花を竹竿につけた「花山」を花持ちがかつぎ、いよいよ行列の出発となります。

祭りのあらまし

露払い・先駆け・殿様・鋏箱かつぎ・シシ引き・シシの順に、「したんじょう、したんじょう」と掛け声を張り上げ、威勢よく通りを練り歩き、まず八幡神社に参拝後、最勝寺（天台宗叡山派）・正覚寺（真宗西本願寺派）・浄善寺（真宗高田派）を一巡し、境内を3回回った後、シシは10分ばかり暴れ回ると、子供たちがいっせいにシシに立ち向かい、太刀を振るって殿様がとどめをさし、猛獣を退治してめでたくお祭りは終了となります。

猪を退治

当日は、鹿俣の「したんじょう行事」をはじめ、いずれも県指定の無形民俗文化財の栃泉の「花山権現」、河内（旧美山町）の「じじぐれ祭り」が行われます。エネルギッシュで華やいだ春山の息吹が満載の春祭りが、うまく時間を繰り合わせればすべて見学することが可能ですので、ぜひ当地の自治会へお問い合せください。

関ヶ原合戦図六曲中屏風（右隻）

菊池（きくち）容斎（ようさい）筆

世に名高い関ヶ原の合戦の様子を描いたこの屏風は、幕末、有職故実の研究者であり、明治時代の歴史画に大きな影響を与えたとも言われる菊池容斎によって描かれました。

右隻は主に西軍が描かれ、有名なところでは中央下、丸に十の字の旗は島津義弘隊、その向かって左側「大一大万大吉」の旗は石田三成隊です。赤地に輪違いの旗は後に東軍に寝返った脇坂安治隊です。また中央上部には、天正17年（1589）から慶長5年（1600）まで敦賀城主であった大谷吉継の隊と、これに対峙する小早川秀秋隊も見えます。

関ヶ原の合戦において、大谷隊は東軍に対し一進一退の攻防を繰り広げますが、小早川秀秋の裏切りを機に、脇坂安治、朽木元綱、小川祐忠、赤座直保らが一斉に寝返り、乱戦のなか大谷吉継は自刃して果てました。ここに描かれた大谷吉継は、水色の頭巾を被り、白衣の下に甲冑をつけ、槍を片手に乗り物から半身を乗り出し、病を押して毅然と戦況報告を受けているようにも、病を押して毅然と戦況報告を受けているようにも、あるいは敗色の濃厚な戦場で、自刃の覚悟を決め、これを家来に語っているようにも見えます。

左隻は主に東軍を描いており、井伊直政隊の赤備え、蔦紋の陣幕の藤堂高虎隊等が見えます。しかし本来描かれるべき徳川家康とその隊は、この屏風には何故か描かれていません。

合戦図屏風の制作意図は、発注者が自らや先祖の武功を後世に伝えるため、あるいは合戦のなくなった世の中で、武士が戦国時代を追慕すると言ったところにあります。この『関ヶ原合戦図屏風』は伝来が不詳で、誰がどういった意図をもって制作を依頼したのかは不明ですが、それを探る手がかりの一つが、右隻中央に描かれる五輪塔の旗指物をさしたよく目立つ人物です。左隻にも、同様の旗の人物が描かれており、この人物が明確に特定できれば、この屏風の制作意図や、徳川家康が描かれていない謎も判明するかもしれません。

この屏風は、多用された金や緑青のあざやかな美しさ、人物の甲冑等、細部における精密な描写に先ず目を奪われますが、描かれた武将達の生涯や、発注者の意図なども想像してみることで、更に深く鑑賞することが出来るのではないでしょうか。

参考文献
敦賀市立博物館発行
『館蔵逸品図録（続三）』2003
小和田哲男監修・新人物往来社発行
『戦国武将の合戦図』2011

□絹本金地着色
□縦97.5×横229.0㎝
□江戸後期～明治初年
□落款「甲寅蒲月容斎逸士」
□印章「容斎」朱文方印

シリーズ31

福井の文学碑

小説家 泉鏡花

「夜叉ヶ池」映画化され人気

南越前町の岐阜県境沿いに、夜叉ヶ池があります。三国岳と三周ヶ岳を結ぶ稜線の中間あたりに位置し、標高が約1100mほどで、周囲230m、深さ7.7m。ブナ林などの原生林に囲まれた池です。

越前、美濃、近江三国にまたがって、竜神や夜叉の伝説が語り継がれている神秘的な池であり、近年では絶滅危惧種になっている固有のヤシャゲンゴロウの生息地としても知られています。例年、地元、南越前町では6月上旬に山開きをしていますが、本県側からだけでもシーズン中、2000人以上の登山者が訪れる人気のある景勝地になっています。アクセスは旧今庄町今庄から合波、大門、荒井、八飯、宇津屋、橋立、広野を通り、広野ダム（昭和51年完成）へ。そこから岩谷川に沿って林道を約5㎞進むと、終着点の登山口に着きます。夜叉ヶ池にはそれから急な登り2時間余り。ダムの完成で林道や登山コースが整備されたこともありますが、こんな辺境の奥山が注目されるようになったのは、昭和54年（1979年）、泉鏡花の戯曲「夜叉ヶ池」が映画化されてからだろう。

夜叉ヶ池

幽玄、魔性の舞台

篠田正浩監督、板東玉三郎主演で、泉鏡花の〝幽玄・魔性の世界〟が鮮烈に再現されています。これを契機に「名作の舞台」として、県内外からの入山者も一気に増え始めました。地元、旧今庄町内で、観光協会や、夜叉ヶ池を讃える会、夜叉龍神社奉賛会らが中心になって、夜叉ヶ池保存会が発足。昭和56年（1981年）7月に、登山口に「夜叉ヶ池」文学碑と鳥居が建立されました。文学碑は、御影石に、曹洞宗大本山永平寺第76世貫首、秦慧玉（はたえぎょく）禅師が「夜叉ヶ池」と揮毫、南越前町には、開祖、道元禅師ゆかりの旧蹟が、木ノ芽峠と脇本の宿（旧南条町脇本）の二ヶ所にあります。

こうしたご縁で、秦禅師（昭和60年没）に揮毫してもらいました。その石碑に埋め込んだ黒御影石板には、

〈花は人の目を誘い　水は人の心を引く　君も夜叉ヶ池を見にきたという〉

という言葉が刻んであります。

泉鏡花「夜叉ヶ池」文学碑

旅人と村娘の愛

戯曲「夜叉ヶ池」は、越前国大野郡鹿見（しかみ）村琴弾（ことひき）谷にある三国嶽のふもとの里が、舞台になっています。夜叉ヶ池の魅力にひかれてやってきた主人公、藤原晃は村の娘、百合と連れ添い、古い鐘つき堂で暮らします。越の大徳、泰澄大師により、夜叉ヶ池に閉じ込められた龍神様の怒りを鎮めるため日に3回、明け六つ、暮れ六つ、真夜中の丑三つの刻に鐘を突いています。

そこへある盛夏、旧友の大学教授、山沢学円がやってきて再会。その時の主人公のセリフが、この石碑に引用されています。物語は、近年にない日照りで水不足の夏でした。村の衆が雨乞いのために村一番の美女、百合を龍神の「いけにえ」に差し出すようにと迫ります。村人の理不尽な要求を拒否し、夫婦愛を貫く主人公・萩原晃と百合の〝至上のラブストーリー〟を軸に、愚かな人間世界と、妖怪変化、ばけものたちが棲む魔界が交錯し不思議な物語が展開されていきます。

魅力尽きぬ作品群

泉鏡花は明治6年（1873年）石川県金沢市下新町生まれ。父は加賀藩の彫金師で母は能役者の娘。「北陸英和学校」を経て、17歳で、小説家を志望し、尾崎紅葉門下に弟子入り。デビュー作は明治25年（1892年）の「冠弥左衛門」を皮切りに、「滝の白糸」「高野聖」「婦系図」「歌行燈」など次々と発表。戯曲「夜叉ヶ池」は大正2年（1913年）に、その後、姫路城を舞台に名作「天守物語」が発表されています。昭和14年（1939年）65歳で逝去。「夜叉ヶ池」をはじめ越前を題材にした作品としては未発表原稿で「白鬼女物語」があり、「高野聖」の原型になったと言われています。

そのほか、栃の木峠を越す紀行文「栃の実」（大正13年）などがあります。泉鏡花の幽玄耽美な世界は、今日なお現代人を引きつけてやまない魅力があります。

戯曲「夜叉ヶ池」

福井の民俗文化

北川流域の子供御輿

暮らしの―古典―

シリーズ 5

毎年「田植え」が終わると、現在の若狭町内（旧上中町）から小浜市にかけて、特に北川流域一帯では多くの集落で「子供神輿（みこし）」が繰り出されて来ました。これは田の神様を祭って田植えの完了を感謝し、また、その年の豊作を祈る行事であり、併せて農家の人たち自身の慰労をするものです。民俗学専門の学者先生のお話では、このような時季に田の神様を祭って神輿を出す事例は、全国的にも珍しいということであり、特に貴重な行事と思われます。

福井県の若狭地方には稲作地帯らしく、いわゆる農耕儀礼を始め、年間を通じていろいろな民俗行事や風習が多く伝えられており、「若狭は民俗の宝庫」ともいわれて来ました。すなわち、特に重要な稲作については、まずは正月初めの「ツクリゾメ」（作り初め）という儀礼的な行事を、1月11日にする所が多く、実際に田植えの時期に入ると、「サビラキ」や、収穫期には「ホガケ」などの行事をする所も、少なくありませんでした。

小浜市遠敷

ところで、稲作農家にとって一番重要で気がかりな作業は、やはり「田植え」ですが、その完了を祝う気持ちは殊に深いと思われます。この時、集落内の全戸を巡回して下さる神輿をお迎えし、お参りする農家の喜びがよく理解できます。特に、この大事な神輿が、主に子供たちによって奉仕されている行事が、若狭の小浜湾に注ぐ北川の流域沿岸一帯に存在して来ました。

私は早くから、村々に受け継がれている伝統行事を重要視して、調査学習を続けて参りましたが、田植え完了時の「子供神輿」については殊に関心を抱き、福井県立若狭歴史民俗資料館に嘱託として、20余年間を勤務している時にも、昭和59年（1984年）には、国庫の助成をも受け、文化庁の文化財調査官天野武先生の御指導を始め、資料館の全職員や地元で10名ばかりの研究者たちの御協力を頂いて、「若狭の田の神祭り」の全面的な調査を実施することができました。その成果は取りまとめて、『若狭の田の神祭り―小浜市・上中町における農耕儀礼の調査報告―』として、昭和60年（1985年）に、福井県教育委員会と若狭歴史民俗資料館の連名にて発行いたしました。

若狭町神谷

また、昭和64年（1989年）の若狭歴史民俗資料館の特別展「若狭の四季―年中行事と祭り」を担当した時にも、この「田の神祭り」を大きく取り上げ紹介しました。

今これらの報告書を参照しながら、この行事の所在地を、北川の本流支流の上流から概観してみますと、上中町で15箇所、小浜市で22箇所が現行とあり、過去は行われていた所として小浜市で5箇所、上中町で2箇所が確認されています。

最近、農業の特に稲作の仕方や形態も随分と変化して来ていますが、伝来の民俗行事には、いろいろと心を打たれる事柄が多くあります。集落内の農家で全戸が田植えを完了できると、村では「ドロオトシ」（泥落とし）とか、「サツキ休み」という日を定めて、みんなが農作業を休み、カシワモチ（柏餅）を食べたりすることも広く行われて来ました。そして、正にふさわしいこの日に、各地で「子供御輿」の巡行が見られるわけです。

全国でも珍しいといわれるこの子供御輿が、ここ若狭で行われているのは、やはり私は京都の文化の影響によるものであろうと考えております。神輿を担ぎ、あるいは随行して村内を巡る子供たちの掛け声や唱え言の中にも、素朴ながらも昔からの意味深い言葉が聞かれ、江戸時代の国学者本居宣長の著書『玉勝間』（たまかつま）に書かれている通り、「田舎（いなか）に古（いにしえ）の雅言（みやびごと）の残れる多し」との名言が想起され、とても嬉しく思っております。

小浜市太興寺

（福井県郷土誌懇談会理事　永江　秀雄）

財団の新専務理事に畑中定衛氏が就任

7月1日から就任

6月16日に開催した当財団の第40回理事会並びに第41回評議員会で川波清一専務理事の辞任が承認され、7月1日付けで、畑中定衛氏が新しく専務理事に就任しました。

ご挨拶

（財）げんでんふれあい福井財団
畑中　定衛

このたびの第40回理事会で推挙され7月1日から当財団の専務理事に就任しました。

当財団が平成9年に設立されて今年は14年目を迎え、財団の更なる発展期となる重要な時期に、重責を担うことになり、私にとって文化の振興という初めての分野の仕事だけに、身のひきしまる思いであります。

本県の文化の振興については、平成22年2月に本県文化の指針となる「教育・文化ふくい創造会議第三次提言」がまとめられ知事に提出されました。

福井県の文化政策は、今後この提言に基づく新たな取り組みがなされ、福井の文化を築いていくことになります。

この様な中で、わが財団も、文化の振興とゆとりある地域づくりを微力ながらお手伝いをする立場から、今日まで培ってきた絆を大切にして、地域に根ざした財団として頑張っていきたいと思いますので、前任者同様ご支援とご指導をいただきますようお願い申し上げます。

平成23年度　財団助成事業決まる

文化団体など108団体に1936万円を交付

福井県内の文化振興を図るために、文化団体等の事業活動に支援する平成23年度の助成事業は、4月20日に公募申請を締め切り、4月5日と5月17日の2回に分けて助成事業選考委員会を開催し、慎重に審査を行いました。その結果の答申を受けて、108団体に対して、1936万円の助成交付金を決定しました。助成対象別の交付決定は、下表のとおりです。そのうち本年度初めて助成を受ける団体数は、35団体で全体の約32パーセントです。

平成23年度　財団助成事業交付金一覧

事業大別	助成対象事業	団体数	助成交付金
地域文化の振興事業	郷土の歴史・文化の保存伝承事業	25	（千円）4,235
	市民文化団体等の活動事業	28	4,360
	国際文化交流事業	3	340
	文化のまちづくり事業	20	3,060
ふれあい及びゆとりの創造事業	ボランティア団体等活動事業	5	570
	各種文化サークル活動事業	6	490
	環境保全等地域づくり事業	12	1,590
芸術鑑賞機会の提供及び文化創造事業	優れた芸術公演、展示の開催に関する事業	3	1,110
	市民参加型芸術文化活動事業	5	1,610
福井県高等学校総合文化祭育成事業		1	2,000
合　計		108	19,365

第30回 気比神宮書き初め大会

げんでんふれあい福井財団特別協賛

第30回気比神宮書き初め大会（気比書法会主催・当財団協賛）がこのほど行われ、県内外の幼児から一般まで1635点の応募があり、2月13日の審査会では桑原宮司のほか気比書法会の幸光会長（日展会友）ら書家15人の慎重審査の結果、気比神宮宮司大賞に松田彩叶さん（小山小）石田淑乃さん（福大附属小）宇野ひろみさん（敦賀西小）の3人が選ばれました。また宮司大賞のほか、げんでんふれあい福井財団賞などの特別賞63点、奨励賞324点、特選1200点が決まりました。

この書き初め大会は昭和57年に嶺南の児童生徒の書道向上を目的に始められ、今年は30回の記念大会にあたります。3月13日の表彰式は気比神宮拝殿で行われ、桑原宮司等から入賞者に表彰状等が贈られました。またげんでんふれあい福井財団賞には大橋彩さん（明新小）今村野瑛さん（南条中）中野苑実さん（明道中）が選ばれました。この展示会は3月11日から13日まで気比神宮境内で開催され、入賞者は自分の作品の前で家族とともに記念写真を撮るなど楽しそうに作品を見てまわっていました。参拝に訪れた人達も、自由な発想で書かれた力作一点一点を鑑賞していました。

「第30回気比神宮書き初め大会」の展示会を見入る人たち（気比神宮境内）

表彰式で宮司大賞を受ける受賞者（気比神宮拝殿）

第34回 平成22年度 福井県新人演奏会

将来有望な若手演奏家が熱演

平成22年度福井県新人演奏会（県文化振興事業団主催・当財団協賛）が平成23年3月20日県立音楽堂で開催されました。

この演奏会は今回で34回目となり、本県出身者および県内在住の音楽家を育成することを目的に毎年度開かれ、若手音楽家の登竜門となっています。この演奏会に先立つオーディションは、2月19日に開催されピアノ、声楽、器楽部門に31人が応募、規定の時間内に日頃の練習の成果を披露しました。

県新人演奏会で独唱する若手音楽家

この審査には今年度から初参加となる福井県出身のピアニストの今川裕代さん、ヴァイオリニストの稲垣琢磨さんら7人が当たり、ピアノ部門8人、声楽部門4人、器楽部門2人の計14人が合格し新人演奏会の出演を決めました。

当日の演奏会では14人の新人演奏家が、オーディションと同じ曲目を披露し、会場からは将来を期待する大きな拍手が送られていました。

「旧町名から見た敦賀の歴史」刊行

日本海地誌調査研究会

敦賀市を中心に活動する、日本海地誌調査研究会、理事の山本晴幸さんが会発足15周年記念に「旧町名から見た敦賀の歴史」を5月に発刊しました。（当財団協賛）

この発刊は平成9年8月より23回にわたり福井新聞に「旧町名は語る」で連載されたものを今回、加筆、新資料を加え一冊にまとめ出版されたものです。町名については明治7年の町名制定、昭和30年の町名変更等により大半の町名が変更され、その歴史と、刻んできた旧町名はともすれば忘れられようとしています。本書は明治7年以前の旧敦賀市街地の古い町名から、その町の由来、歴史、文化、住民の生活等を市民の目線で詳細に記述されています。

敦賀の歴史や文化、民俗を学ぶ上で貴重な資料も多く、興味深く楽しめる内容となっています。（A5版96頁、2千部印刷、市内の小、中、高等学校、公民館、図書館等に配布されます）

旧敦賀市街地の古い町名を解説した「旧町名から見た敦賀の歴史」

読者アンケートのまとめ

「げんでんふれあい福井（38号）」について

財団情報誌38号（平成22年11月発行）のアンケートに、回答をいただきありがとうございました。

第38号で良かった記事

- ○ふくい県民総合文化祭 …… 6名
- ○「白川文字学」と福井（下） …… 8名
- ○ふるさと福井·人物シリーズ「食育の祖　石塚左玄（四）」… 7名
- ○ふくいの伝統行事シリーズ「海士坂の送り盆」…… 7名
- ○福井の文学碑「作家　山本周五郎」…… 11名
- ○福井の民俗文化 シリーズ3「耳川流域のカイロ講」…… 7名

本誌へのご意見・ご要望

- ○福井の文学碑・今庄の板取の宿は機会があれば是非訪ねてみたい場所です。
- ○誌上ギャラリー・絵に素人の私でも、わかりやすく説明してあり、次号も楽しみになった。
- ○大変読みやすく、きれいな紙面に進化していると思う。
- ○県内の祭りや行事が詳しく書いてあり、機会があれば行ってみたい。
- ○福井県は伝統と文化に富んだ県だと感心します。
- ○イベント情報にチケットについて詳しく記して欲しい。
- ○助成金を活用している団体の活動状況の紹介をお願いします。
- ○助成金制度は大変良い。
- ○絵画、写真などの発表会の場も企画、表彰などするとよい。
- ○文化講演会（永山久夫）を聞きましたが、ユーモアがあってこれからの健康にとても役立つ話でした。

これからも誌面の充実に努めてまいりますので、今後ともご支援を賜りますようお願いします。（編集係）

写された若狭

井田家所蔵　古写真の世界

若狭歴史民俗資料館移動企画展「写された若狭『古写真の世界』」が3月26日から5月8日まで福井県立歴史博物館で開催されました。この古写真は小浜市で井田写真館を営んでいた井田米蔵氏（明治20年～昭和43年）が撮影したもの。平成21年春に井田家より若狭歴史民俗資料館にガラス乾板、フィルム等約390点が寄託されたことからこの写真展が実現しました。今回展示された写真は、明治末期から昭和のはじめころまでに撮影された写真約170点で、若狭地方の風景や暮らし、町並、祭りなど多岐にわたり撮られており、民俗学、社会学としても貴重な学術資料と言えます。

帆走する北前船　明治末～大正期
（井田家所蔵古写真）
（資料提供：若狭歴史民俗資料館）

同資料館では「若狭の歴史を知る上で貴重な資料、地域の文化や先人の営みの一端を感じ取って欲しい」と紹介しています。

見学に訪れた人達は北前船などの珍しい古写真を、一点ずつ興味深く鑑賞していました。

げんでんふれあい福井 第40号
2011年7月発行

財団ふれあい通信

第14回 2011 写真コンテスト ふるさと大賞 写真コンテスト

募集要項

○テーマ　「ふるさとふくいの活力・笑顔」

○部門　学生の部（高校生以上）・一般の部の2部門

○資格　①福井県に在住、又は学校・勤務先が福井県内であること。
②写真の専門家（プロカメラマン）でないこと。

○作品　応募点数は制限しません。ただし応募者本人が県内で2009～2011年に撮影したもので、自作の未発表作品に限ります。

○作品の規格　カラー・モノクロで四ッ切、又は四ッ切Wの単写真のみとします。（デジタルプリントも同様）

○応募方法　所定の応募用紙に必要事項を記入し、作品の裏にセロテープで貼って提出してください。

○締切　平成23年12月9日（金）　当日消印有効

○発表　平成24年1月下旬
※入賞者にはご通知いたします。

○表彰　表彰式　（優秀賞以上）
平成24年2月7日（火）　〈ふるさとの日〉

○展示会　敦賀、福井市の2会場にて写真展を開催し、作品を広く県民の皆さんに公開します。

○その他　①デジタルカメラの作品は合成や特殊加工がないもののみ可とします。
②入賞者には、ネガ・リバーサル等原版（デジタルカメラの場合は未処理データ【原画】をCDなどにコピーしたもの）の提出を求めます。
③応募作品は返却しません。但し返却を希望される方は「返却希望」と封筒に朱書きし、500円分の切手を同封してください。
④入賞、入選作品の使用・著作権は主催者に帰属し、財団のPR活動等に使用させていただきます。

○応募先 問合せ先　①914-0051　福井県敦賀市本町2丁目9番16号
㈶げんでんふれあい福井財団
②福井県カメラ商組合店 及び
県内フジカラー取扱店

作品募集

第13回 ふるさと大賞作品「雪割りて」 中村　秀蔵さん（勝山市）

賞金

ふるさと大賞	1点	賞状・トロフィ・賞金30万円 ※但し、高校生の場合は、賞金相当額の記念品とする。
ふるさと賞	3点	賞状・トロフィ・賞金 学生:5万円1点／一般:10万円2点
優秀賞	5点	賞状・トロフィ・賞金 学生:3万円2点／一般:5万円3点
入選	30点	記念品 学生:記念品5点／一般:記念品25点
佳作	30点	記念品 学生:記念品5点／一般:記念品25点

主催：㈶げんでんふれあい福井財団
後援　：福井県／福井県教育委員会／敦賀市／敦賀市教育委員会／㈳福井県文化協議会／福井県高等学校文化連盟／㈱福井新聞社
FBC福井放送／福井テレビ／㈱嶺南ケーブルネットワーク
協賛　：福井県カメラ商組合／富士写真フイルム㈱／フジカラー北陸㈱

財団イベント　INFORMATION

ビートフェニックス2011	ザ・ゴスペラーズ、秦基博、ヒルクライム	8/26㈮	福井市エルパ 屋上駐車場特設ステージ	FM福井主催、財団協賛（前売）6,500円
第15回福祉演芸会	豊来家玉之助（太神楽曲芸）林田麻友子（歌手）	10/4㈫～6㈭	県内6福祉施設	財団主催　無料
げんでんふれあいコンサート2011	財津和夫	10/22㈯	敦賀市民文化センター	財団主催 2,000円（全席指定）
劇団民芸福井公演「海霧」	樫山文枝主演	11/4㈮	福井市アオッサ 8階　県民ホール	福井新聞社主催、財団協賛（前売）S席　4,700円 A席　3,700円
マキシム　ピアノ・ソロ ジャパンツアー2011	マキシム	11/6㈰	県立音楽堂	福井県文化振興事業団主催、財団協賛　5,000円（全席指定）

（発行）財団法人 げんでんふれあい福井財団　TEL.0770-21-0291 FAX.0770-21-9070
〒914-0051　福井県敦賀市本町2丁目9番地16号（日本原子力発電㈱敦賀地区本部4階）H.P http://www.genden.or.jp